

平成 23年度 社団法人日本環境アセスメント協会 技術交流会 展示発表
平成 23年 12月1日(木) 開催

2. 日本のレッドデータ検索システム・高機能自動撮影カメラ

NPO 法人野生生物調査協会
(株)地域環境計画

- ・日本のレッドデータ検索システムは、国および地方自治体が公表しているレッドリストを網羅した検索システムで、現在 120 万 pv/月を記録しています。
- ・哺乳類などの自動撮影に便利な、高機能自動撮影カメラの利用方法等を紹介します。



NPO法人 野生生物調査協会

NPO法人 野生生物調査協会

設立の目的

我が国における生物多様性は危機的状況にあり、野生生物の保全は緊急を要する重要な課題となっています。こうした背景をふまえて、本法人は、野生生物の保全に関する「基礎研究と情報発信」、「保全技術者の育成」および「保全活動の社会に対する普及啓発」の3つを中心とした事業とし、本協会の生物多様性保全を実現していきます。その公益活動をもって、私たちの抱える環境保全にかかわる諸問題を解決し、健全な環境をもつ持続可能な社会の実現に向けて、広く社会に貢献することを目的としています。

事業の内容

- 野生生物にかかわる調査研究
 - 調査対象の選定と実施手続の検討
 - 野生生物保全計画の策定
- 野生生物にかかわる情報収集と提供
 - 日本および海外の生物多様性情報の収集と提供
 - レッドデータブックのデータベース構築と提供
- 野生生物保全事業にかかわる啓発性活動のための啓発、認定および人材育成
 - 講演会や研修会、教育プログラムの開発・実施
 - 調査隊の人材育成と確保活動
- 野生生物保全事業にかかわる研究開発
 - 調査隊の育成のための研修
 - ニューズ・データ集約技術の開発
- 野生生物保全にかかわる行政や民間等の取り組みに対する啓蒙・啓発
 - 野生生物保全事業にかかわる関係機関との連携
 - 野生生物保全にかかわる必要な活動の実施
- その他、自然保護を促進するために必要な事業

活動実績

① シンポジウムの開催
 第1回「野生生物保全技術の現状と課題」、第2回「国内レッドデータブックの現状と課題」、第3回「環境アセスメントにおける生態系評価を考える」、第4回「外来生物の生態系に与える影響と今後の課題」、第5回「淡水環境の改善が野生動物に及ぼす影響と対策、小動物のバリアフリー」、第6回「環境保全における生物多様性評価手法」、第7回「生物多様性の保全と情報技術」、第8回「都市の生物多様性とその他」

② 講習会の開催
 技術士会講習会と生物多様性技術認定研修講習会をそれぞれ1回開催。

③ 技術交流会の開催
 第1回「猛禽類」、第2回「雉くま」、第3回「里山の植物」、第4回「製菓作業」

④ 自主研究
 平成16年度「都道府県レッドデータブックの情報整理と比較検討」、平成17年度「都道府県レッドデータブック検索システムの開発」、平成18年度「小動物バリアフリー対策（家畜環境と対策実践）」、平成20年度「農園における生物多様性指標」

⑤ 助成研究
 「多摩川流域におけるヒメビロウドカミキリ虫体群の分布と保全」（財）こうきょう環境浄化財団

⑥ 出版
 「都道府県下する小動物を扱うには 小動物のバリアフリー対策」

日本の レッドデータ 検索システム

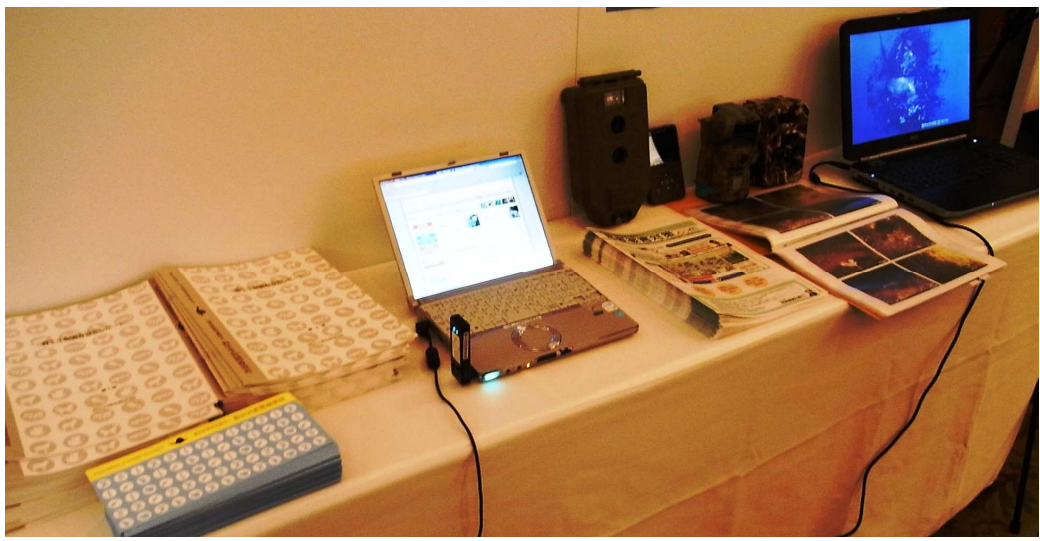
国および都道府県のレッドリストの情報を統合したデータベースの構築・開発システムです。種名検索のほか、分類群検索・都道府県検索など豊富な検索機能も備えています。




<http://www.jpnrdb.com>

※このシステムは、国・自治体・NPO法人・企業・個人が共同で開発・運営しています。

Association of Wildlife Research
 特定非営利活動法人 野生生物調査協会



株式会社 地域環境計画

鳥獣被害対策商品の総合販売サイト
Online stores for general devices for prevention of damage caused by wild animals

鳥獣被害対策.com

http://www.choujuhigai.com

野生鳥獣による被害の現状

近年、全国で野生鳥獣による被害の拡大、被害被害、生態系への被害が増加しています。

- ◎中山間地では
 - ・イノシシやシカによる農作物被害
 - ・シカの食害による希少植物や林床植生の消失、貧弱化や林業被害が拡大しています。
- ◎都市近郊～中山間地では
 - ・アライグマに代表される外来生物による農作物被害
 - ・在来生物への捕食圧や競合等による生態系の劣化等を引き起こしています。
- ◎都市近郊では
 - ・ハクビシンやアライグマの家屋や重要建造物侵入による被害
 - ・カラスによるゴミ荒らし被害
 - ・ドバト等による糞害なども増えています。

被害対策が急務!

- ・こうした鳥獣害に対して、各都道府県では、例えばイノシシやシカ等については特定鳥獣保護管理計画を、アライグマやハクビシン等については特定外来生物防除計画を立て、その対策に積極的に取り組んでいる状況ですが、大幅な被害の減少には至っていません。
- ・近年、急激に被害が増えている地域や被害が継続している地域では、早急な対策が必要です。

対策に必要なこと

- ・鳥獣被害対策は、被害が起きている場所や環境、被害の種類、被害を及ぼした動物によって、対策内容、対策用品が異なります。
- ・適切な対策を行うためには「被害の内容や程度に応じた対策方法の選定」、「対策用品の効果的な使用方法の理解」、「対象動物の生態に関する知識」などが必要です。
- ・なお、「わな」による捕獲を行うには、わな猟免許や捕獲従事者の資格が必要です。

『ちいかん』が始めたこと

『ちいかん』は、会社設立以来30年にかけて「生きものと共生する地域づくり」に貢献する、という企業理念のもと、自然環境調査やコンサルティングを行ってきました。このたび、私たちは「生きものと共生する地域づくり」の実現に向けて、より多方面から支援すべく鳥獣被害対策商品の総合販売サイト「鳥獣被害対策.com」を立ち上げました!



鳥獣被害対策.com 検索

- このサイトでは
- ★動物の生態や防除対策、必要となる法律に関する情報を提供しています。
 - ★対象動物に合わせた各種対策商品を揃えています。
 - ★適正な価格で購入できます!

お気軽に
アクセスして下さい!

株式会社
地域環境計画